

きぼう

令和8年5月29日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年 学年便り 6月号

自らの“きぼう” 仲間の“きぼう” に向かって

23日、「きぼう」の子どもにとって、小学校生活最後の運動会が終了しました。4月に応援団長をはじめとした応援団が決まってから当日まで、子どもは全力で運動会に向かって歩み続けてきました。

1年生から6年生までの異学年5クラスを動かしていくという、これまで経験したことのない立場。思うようにいかないことや、悩む場面もたくさんあったと思います。「これでは時間に間に合わない!」「この応援歌は伝統として大切にしたいよね」「でも、自分たちらしさも出したい!」と、子どもは何度も話し合いを重ねながら準備を進めていきました。意見がぶつかることもありましたが、その度に相手の思いに耳を傾け、よりよい形を探ろうとする姿が見られました。

応援練習では応援団を中心に、学年種目の綱引きでは運動会実行委員を中心に、練習計画や進行、声かけに至るまで、自分たちの手で創り上げていきました。与えられたものをこなすのではなく、「どうすればみんなが楽しめるか」「どうすれば気持ちを一つにできるか」を考えながら行動する姿に、最高学年としての頼もしさを感じました。

「自らの“きぼう”」に向かって挑戦しながら、「仲間の“きぼう”」も大切にします。そのような思いを胸に、仲間と支え合いながら運動会を創り上げていく子どもの姿に、担任一同、とても感動しました。当日を迎えるまでの一つ一つの経験が、子どもにとって大きな成長につながったことを感じています。

結果は黄組の総合優勝となりました。しかし、1回目の応援合戦は赤組、学年種目の綱引きは青組、2回目の応援合戦は黄組が勝利し、どのクラスもそれぞれの場面で1位を獲得することができました。赤組の「一致団結」、青組の「共支共戦」、黄組の「勇往邁進」。それぞれのテーマのもと、子どもは仲間と心をつなげながら最後まで全力で取り組む姿を見せてくれました。当日は、自分たちの競技や応援だけでなく、他学年の競技中にも応援席の前に立ち、大きな声で応援する姿がありました。また、競技を終えた下級生に「頑張ったね」「上手だったよ」と優しく声をかける姿もあり、最高学年として学校全体を支えようとする思いが伝わってきました。応援団や実行委員を中心に創り上げてきた運動会。その中心となって動いてきた子どもだけでなく、一人一人が自分の役割を果たしながら、仲間とともに運動会を創り上げることができました。

運動会を通して学んだ、仲間と協力することの大切さや、互いを支え合う温かさを、これからの学校生活にも生かして行ってほしいと思います。